

# Ⅴ 連携・接続

## 提言内容

地域の特性を踏まえ、家庭・地域等と連携した開かれた学校づくりや育ちの連続性を踏まえた教育の在り方に関する提言

## 分科会の趣旨

家庭はすべての教育の出発点として、暮らしの営みを通して、子どもの豊かな情操、基本的な生活習慣や規範意識、人への信頼感や思いやる心を育むという重要な役割を担う。また、地域は子どもに、地域での交流体験や社会体験、自然体験等の様々な体験を提供することで自立性や社会性の基盤を育む役割を担う。子どもが健やかに成長できる教育環境の実現のためには、学校・家庭・地域社会がそれぞれの役割を果たすとともに、一体となる取組が必要である。学校が教育課程を改善しながら、複雑化、多様化した課題を解決していくために地域・家庭と連携し、「チームとしての学校」を実現していくことが求められている。

また、学校現場では、小学校・義務教育学校入学時における小一プロブレムや中学校入学時での中一ギャップと言われる、学習や生活への不適応等の課題解決に向けて、異校種間の連携が必要である。中でも、幼児教育の学びの成果を小学校と共有していくためのスタートカリキュラムの充実や、小・中学校9年間で目指す資質・能力の共有・育成を図ることは重要である。

そこで本分科会では、子どもにとってのよりよい教育環境づくりとして、家庭・地域等の連携した開かれた学校づくり、異校種間連携の在り方について校長はどのようなリーダーシップを発揮するべきか、具体的な方策を明らかにし、提言する。

## 分散会の視点

### 第23分散会

家庭・地域等と連携した開かれた学校づくりの推進（少子人口減少社会における新たな学校づくり・統廃合を含めて）

子どもの健やかな成長・発達にとって、学校・家庭・地域のそれぞれが役割をしっかりと果たし、三者が連携・協働をしていくことは大変重要である。その中核的な役割を果たすためにも、学校は、家庭や地域に対し積極的に関わっていき、そこでの様々な状況やニーズを的確に捉え、さらに家庭や地域の支援を受け入れ、学校運営に反映させていく必要がある。また、学校・家庭・地域がそれぞれの役割を果たすとともに、一体となる取組ができるよう、学校がチームとして地域・家庭と連携していくことが求められる。

本分散会では、三者の連携を進め、開かれた学校づくりを推進する上での具体的方策について協議を深め、校長の役割と指導性を究明する。

### 第24分散会

異校種間の学びの連続性を重視した教育の推進（小中高一貫、幼・保・小・中・義務教育学校連携など）

小一プロブレム、中一ギャップと言われる、学習や生活への不適応等の課題を解決するためには、まず、子どもたちの育ちの連続性を考慮した異校種間の接続が必要である。

そのためには、幼・保・小・中・義務教育学校の各機関が互いの教育を理解し、課題を共有し、きめ細かな教育活動に繋がるような連携を深めることが求められる。生活科を中心としたスタートカリキュラム等や、小・中学校9年間で育成を目指す資質・能力の共有など、異校種間を越えて連続性を重視した指導をより充実させることが必要である。

本分散会では、このような視点から、異校種間の連携と接続について具体的に協議を深め、校長の役割と指導性を究明する。